

福祉サービス第三者評価結果報告書（令和7年度）

2026年3月16日

足立区教育委員会

〒 110-0016

所在地 東京都台東区台東三丁目2番5号大林ビル2F

評価機関名 有限会社エテルノ

認証評価機関番号

機構 06 - 169

電話番号 03-5812-0840

代表者氏名 山崎 剛志

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

| 評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号 | 評価者氏名 | | 担当分野 | 修了者番号 |
|---|--|-------------------|-------|----------|
| | ① | | 福祉 経営 | H0601040 |
| | ② | | 福祉 経営 | H2001018 |
| | ③ | | 福祉 | H2201009 |
| | ④ | | | |
| | ⑤ | | | |
| | ⑥ | | | |
| 福祉サービス種別 | 小規模保育事業 | | | |
| 評価者対象事業所名 | 株式会社MIRATZ M I R A T Z 東和保育園 | | | |
| 事業所連絡先 | 〒 | 120-0003 | | |
| | 所在地 | 東京都足立区東和2丁目20番21号 | | |
| | TEL | 03-5849-5826 | | |
| 事業所代表者氏名 | 山田 佳代子 | | | |
| 契約日 | 2025年 8月 9日 | | | |
| 利用者調査票配布日（実施日） | 2025年 10月 16日 | | | |
| 利用者調査結果報告日 | 2026年 1月 9日 | | | |
| 自己評価の調査票配布日 | 2025年 10月 16日 | | | |
| 自己評価結果報告日 | 2026年 1月 9日 | | | |
| 訪問調査日 | 2026年 1月 13日 | | | |
| 評価合議日 | 2026年 1月 27日 | | | |
| コメント (利用者調査・事業評価の工夫点 補助者・専門家等の活用、第三者 性確保のための措置などを記入) | 評価実施にあたり、評点基準や根拠書類の準備について、わかりやすく解説した独自マニュアルを用いて説明を行っている。分析シートは記入の手引きを用意し、効果的に情報が整理できるよう工夫を行っている。確認根拠資料は、訪問調査の概ね4週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ってから訪問調査を実施している。訪問調査は事業所の課題や良い点を中心に把握することを重点に置いて実施している。合議は、訪問調査終了後に速やかに実施している。 | | | |

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026年3月13日

事業所代表者氏名 株式会社MIRATZ M I R A T Z 東和保育園 山田佳代子 印

〔事業者の理念・方針、期待する職員像：小規模保育事業〕

| | |
|---|---|
| 1 | 理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） |
| | 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） |
| | <p>（理念）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未来の希望に向かって発展、向上する明るい元気な子どもを育む。 ・心豊かなエコ環境と優しい地域社会に生き生きと共生する子どもを育む。 ・みんなを親しみ愛し、太陽のように暖かい心を持った子どもを育む。 <p>（方針）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全な環境の中で一人ひとりの育ちに寄り添い豊かな愛情を持って応答的に接する。 ・様々な経験を通して豊かな感性を育む。 ・家庭との連携を大切にし、お子さまの成長を共に見守る。 <p>（目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よく遊び、よく食べ、よく眠り、心身共に健やかな子ども ・自分や友達を大切にし、思いやりのある子ども ・自分の気持ちや思いを表現する子ども |
| 2 | 期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） |
| | （1）職員に求めている人材像や役割 |
| | <p>人材像：</p> <p>体調管理ができ、子どもが好きである。明るく穏やかで、業務に必要なコミュニケーションがとれる。責任感がある。</p> <p>役割：</p> <p>子どもの生活のお世話をする。（基本的な生活習慣を身につけさせる役割）</p> <p>子育て家庭のサポートをする。（保護者支援）</p> <p>集団生活を通して、社会性を身につけられるよう支援する。</p> |
| | （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりに寄り添って成長を支援する。 ・保護者と信頼関係を作り、一緒に成長を喜んだり、不安や悩みに寄り添う。 ・子どもを安全に預かり、安心して過ごせるような配慮をする。 |

〔利用者調査：小規模保育事業〕

| | | | |
|------|--|------|--|
| 調査対象 | 保育園に通っている園児15世帯16人に対して調査を行った。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。 | | |
| 調査方法 | 保護者にはウェブ調査回答用URLおよびQRコード、IDを配付して、回答をウェブ上で収集した。外国語世帯のみ調査票の直接郵送にて回収した。結果は選択式・自由記述式ともに園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。 | | |
| | 利用者総数 | 16 | |
| | 利用者家族総数（世帯） | 15 | |
| | 共通評価項目による調査対象者数 | 15 | |
| | 共通評価項目による調査の有効回答者数 | 11 | |
| | 利用者総数に対する回答者割合（％） | 73.3 | |

利用者調査全体のコメント

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」72.7%、「満足」18.2%の計90.9%であった。自由意見では、「先生や園内の雰囲気がとてもよいので、安心して預けられます。」「子どもの成長に寄り添ってくださってありがとうございます。活動記録を丁寧に書いてくださっていて、毎日見るのが楽しみです。」「クラス関係なく先生が名前を覚えてくださっていて、アットホームな雰囲気がとても良い。」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が寄せられている。向上または検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもや保護者への対応、設備に関する事など、回答者個々の考え方や気になる点が寄せられている。設問別では、「心身の発達」「興味や関心」「食事」「自然や社会との関わり」「保育時間の変更」「安全対策」「行事日程」「信頼関係」「整理整頓」「接遇」「病気やけが」「トラブル対応」「気持ちの尊重」「プライバシーの保護」「保育内容の説明」「不満や要望の対応」「苦情窓口」などの17問中17問が80%以上の支持を得ている。

利用者調査結果

コメント欄を必ず入力してください

| 共通評価項目 | 実数 | | | |
|--|----|---------------|-----|------------|
| | はい | どちらとも いえない | いいえ | 無回答 非該当 |
| 1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか | 11 | 0 | 0 | 0 |
| 「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「できることが増えている印象があるので、先生がいろいろと工夫しながら活動時間を過ごしていただいていると感じます」「歌を覚えてきたり、友だちの名前を覚えたり家の中ではできないことをたくさんしていただいている」という声が寄せられていた。 | | | | |
| 2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか | 11 | 0 | 0 | 0 |
| 「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見は、1件も寄せられていなかった。 | | | | |

| | | | | |
|---|----|-----------|-----|------------|
| 3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか | 9 | 2 | 0 | 0 |
| <p>「はい」の回答は81.8%、「どちらともいえない」の回答は18.2%であった。</p> <p>自由意見では、「いつも給食はしっかり食べてくれるので栄養面含め満足しています」という声が寄せられている一方、「月に二度同じ給食が出る理由は理解していますが、毎月ほぼ同じ献立すぎるかなと思います」という意見が寄せられていた。</p> | | | | |
| 共通評価項目 | 実数 | | | |
| コメント | はい | どちらともいえない | いいえ | 無回答 非該当 |
| 4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか | 10 | 0 | 1 | 0 |
| <p>「はい」の回答は90.9%、「いいえ」の回答は9.1%であった。</p> <p>自由意見では、「十分といえるほどの機会はないと思いますが、自然と触れあう機会は先生のおかげで取れていると感じます」という声が寄せられていた。</p> | | | | |
| 5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか | 9 | 0 | 0 | 2 |
| <p>「はい」の回答は81.8%、「無回答・非該当」の回答は18.2%であった。</p> <p>自由意見は、1件も寄せられていなかった。</p> | | | | |
| 6. 安全対策が十分取られていると思うか | 10 | 1 | 0 | 0 |
| <p>「はい」の回答は90.9%、「どちらともいえない」の回答は9.1%であった。</p> <p>自由意見は、1件も寄せられていなかった。</p> | | | | |
| 7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か | 11 | 0 | 0 | 0 |
| <p>「はい」の回答は100.0%であった。</p> <p>自由意見では、「個人面談を17時からにできるのがあります」という声が寄せられていた。</p> | | | | |
| 8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか | 10 | 0 | 1 | 0 |
| <p>「はい」の回答は90.9%、「いいえ」の回答は9.1%であった。</p> <p>自由意見では、「とても親身にお話を聞いていただいています」という声が寄せられていた。</p> | | | | |
| 9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか | 11 | 0 | 0 | 0 |
| <p>「はい」の回答は100.0%であった。</p> <p>自由意見では、「時折模様替えもされていて、工夫を感じます」という声が寄せられていた。</p> | | | | |
| 10. 職員の接遇・態度は適切か | 10 | 1 | 0 | 0 |
| <p>「はい」の回答は90.9%、「どちらともいえない」の回答は9.1%であった。</p> <p>自由意見は、1件も寄せられていなかった。</p> | | | | |

| 共通評価項目 | 実数 | | | |
|--|----|---------------|-----|------------|
| | はい | どちらとも いえない | いいえ | 無回答 非該当 |
| 11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか | 11 | 0 | 0 | 0 |
| <p>「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「目に見えない怪我をしたかもしれないと言う時に、すぐに病院へ連れて行っていただきとても安心につながりました」という声が寄せられていた。</p> | | | | |
| 12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか | 11 | 0 | 0 | 0 |
| <p>「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見は、1件も寄せられていなかった。</p> | | | | |
| 13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか | 11 | 0 | 0 | 0 |
| <p>「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「子どもを大切にしているのが伝わります」という声が寄せられていた。</p> | | | | |
| 14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか | 10 | 1 | 0 | 0 |
| <p>「はい」の回答は90.9%、「どちらともいえない」の回答は9.1%であった。 自由意見は、1件も寄せられていなかった。</p> | | | | |
| 15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか | 11 | 0 | 0 | 0 |
| <p>「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見は、1件も寄せられていなかった。</p> | | | | |
| 16. 利用者の不満や要望は対応されているか | 10 | 0 | 1 | 0 |
| <p>「はい」の回答は90.9%、「いいえ」の回答は9.1%であった。 自由意見は、1件も寄せられていなかった。</p> | | | | |
| 17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか | 10 | 1 | 0 | 0 |
| <p>「はい」の回答は90.9%、「どちらともいえない」の回答は9.1%であった。 自由意見は、1件も寄せられていなかった。</p> | | | | |

〔組織マネジメント：小規模保育事業〕

I 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7）

| | | |
|----|---|---|
| No | 共通評価項目 | |
| 1 | カテゴリー1 | |
| | リーダーシップと意思決定 | |
| | サブカテゴリー1（1-1） | |
| | 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている | サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 |
| | 評価項目1 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している 評点（ ） | |
| | 評価 | 標準項目 |
| | ●あり ○なし | 1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当 |
| | 評価項目2 経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事務所をリードしている 評点（ ） | |
| | 評価 | 標準項目 |
| | ●あり ○なし | 1. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 2. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当 |
| | 評価項目3 重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点（ ） | |
| | 評価 | 標準項目 |
| | ●あり ○なし | 1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当 |
| | カテゴリー1の講評 | カテゴリー1の講評を入力してください |
| | <p>園の理念が職員と利用者双方へ多角的な機会を通じて周知・理解が図られている</p> <p>園は、理念やビジョンを職員マニュアルや書庫、事務所内の掲示を通じて全職員に周知し、行動基準の明確化を図っている。特に、ミッション、ビジョン、バリューを事務室入室時の真正面に掲示し、職員が日常的に意識できるよう工夫されている点は評価できる。利用者に対しても、保護者会や入園前面談、アンケート報告など多様な機会を通じて理念を丁寧に説明し、共通理解の形成に努めている。経営層は、安定した運営と子どもの安全・発達促進という自らの役割を明確に示し、職員の方向性を提示することで、組織をリードしている。</p> <p>重要な案件の意思決定手順の明確化と緊急時における情報共有の迅速化が求められる</p> <p>園は、職員の意見や保護者の声を受け止め、客観的な情報に基づいて判断する姿勢を有している。しかし、事業の経営や運営に関わる重要な案件について、組織として検討や決定の手順が明確に定められていない点が課題として認識されている。また、園長不在時の緊急時や突発的な出来事に対する判断基準が不明確であり、現場職員が速や</p> | |

| | | |
|---|---|--|
| | <p>かに一次対応を行うための体制強化が求められている。今後は、重要な情報を口頭だけでなく、デジタルツールを活用して速やかに共有できる仕組みの導入が望まれている。</p> <p>組織的な意思決定の透明性と危機管理体制の強化が図られている</p> <p>園は理念やビジョンを職員の行動基準として浸透させるための基盤が整えられており、経営層は安定運営と子どもの安全確保という役割を明確に示し、組織をリードしている。一方で重要な案件の意思決定プロセスが明確に定まっていないため、決定経緯の透明性確保に課題が残されている。今後は、この強固な理念の基盤を活かし、組織的な意思決定の手順を明確化し、職員全員が納得できる形で周知することが求められる。また、園長不在時でも現場職員が迅速に対応できるよう、判断基準の明確化とデジタルツールを活用した危機管理体制の強化が望まれている。</p> | |
| 2 | <p style="text-align: center;">カテゴリー 2</p> | |
| | <p>事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行</p> | |
| | <p style="text-align: center;">サブカテゴリー 1 (2-1)</p> | |
| | <p>事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している</p> | <p>サブカテゴリー毎の標準項目実施状況</p> |
| | <p>評価項目 1</p> <p>事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評点 ()</p> | |
| | 評価 | 標準項目 |
| | ●あり ○なし | <p>1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当</p> |
| | ●あり ○なし | <p>2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している ○非該当</p> |
| | ●あり ○なし | <p>3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当</p> |
| | ●あり ○なし | <p>4. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）について情報を収集し、課題やニーズを把握している ○非該当</p> |
| | ●あり ○なし | <p>5. 事業所の経営状況を把握・検討している ○非該当</p> |
| | ●あり ○なし | <p>6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している ○非該当</p> |
| | <p style="text-align: center;">サブカテゴリー 2 (2-2)</p> | |
| | <p>実践的な計画策定に取り組んでいる</p> | <p>サブカテゴリー毎の標準項目実施状況</p> |
| | <p>評価項目 1</p> <p>事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評点 ()</p> | |
| | 評価 | 標準項目 |
| | ●あり ○なし | <p>1. 課題をふまえ、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画を策定している ○非該当</p> |
| | ●あり ○なし | <p>2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ○非該当</p> |
| | ●あり ○なし | <p>3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている ○非該当</p> |
| | <p>評価項目 2</p> <p>着実な計画の実行に取り組んでいる 評点 ()</p> | |
| | 評価 | 標準項目 |
| | ●あり ○なし | <p>1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた、計画の推進方法（体制、職員の役割や活動内容など）、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している ○非該当</p> |
| | ●あり ○なし | <p>2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し（半期・月単位など）、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる ○非該当</p> |
| | <p style="text-align: center;">カテゴリー 2 の講評 カテゴリー 2 の講評を入力してください</p> | |

| | <p>多角的なニーズ把握と多様な子育て支援への積極的な取組が図られている</p> <p>園は、利用者アンケートや運営委員会を通じて保護者の意向を把握し、日常生活や行事の様子の見える化など、園内ですぐに改善できる事項は迅速に対応している。また、小規模保育事業者全体説明会や健やか親子ネットワーク連絡会への参加を通じて、地域の福祉ニーズや業界の動向を多角的に収集している。特に、定員空き枠を利用した一時保育を実施し、地域の子育て家庭の多様なニーズに応える取組は評価できる。これにより、子どもの経験を豊かにする活動や、地域住民の交流の場としての役割も果たされている。</p> <p>計画策定における予算との連動性の強化と職員の意向把握の文書化が求められている</p> <p>園は、理念の実現に向けた中期計画書及び単年度の事業計画書を策定し、保育士不足への対応や地域連携といった課題解決に取り組んでいる。また、子ども在籍率や離職率などの数値目標を設定し、計画の達成度合いを測る指標を明示している。しかし、策定された計画と財務面が連動した予算編成が「実施なし」とされており、計画の実効性を高めるための財務的な裏付けの強化が求められている。また、職員の意向把握が主にヒアリングのみで、検討資料として文書化されていない点も、組織的な課題解決と継続的なサービス改善のために改善が望まれている。</p> <p>地域連携による多様な経験の提供と多文化共生・危機管理体制の強化が望まれる</p> <p>園は、近隣の図書館や保育園などの施設を利用し、子どもの経験を豊かにする取組や、一時保育の実施による地域の子育て家庭への支援を積極的に行っている。一方で、外国ルーツをもつ子どもの増加に伴い、伝達事項の説明や発達に関する聴き取りが言葉の壁から難しい場面があるという課題が抽出されている。このため、入園案内やおたよりの翻訳、絵などを使った分かりやすいツールの導入による多文化共生への対応強化が求められる。また、災害時における地域との顔の見える関係づくりや、他園との協力体制の構築による危機管理体制の強化も望まれている。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|--|------|------|--|---------|---|------|---------|--|------|----|------|--|---------|--|------|---------|---|------|----|------|--|---------|---|------|
| 3 | <p style="text-align: center;">カテゴリー 3</p> <p>経営における社会的責任</p> <p style="text-align: center;">サブカテゴリー 1 (3-1)</p> <p>社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる サブカテゴリー毎の標準項目実施状況</p> <p>評価項目 1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点 ()</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">評価</th> <th style="width: 70%;">標準項目</th> <th style="width: 15%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">サブカテゴリー 2 (3-2)</p> <p>利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている サブカテゴリー毎の標準項目実施状況</p> <p>評価項目 1 利用者の意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点 ()</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">評価</th> <th style="width: 70%;">標準項目</th> <th style="width: 15%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価項目 2 虐待に対し組織的な防振対策と対応している 評点 ()</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">評価</th> <th style="width: 70%;">標準項目</th> <th style="width: 15%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table> | 評価 | 標準項目 | | ●あり ○なし | 1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる | ○非該当 | ●あり ○なし | 2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。 | ○非該当 | 評価 | 標準項目 | | ●あり ○なし | 1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている | ○非該当 | ●あり ○なし | 2. 利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある | ○非該当 | 評価 | 標準項目 | | ●あり ○なし | 1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している | ○非該当 |
| 評価 | 標準項目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ●あり ○なし | 1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる | ○非該当 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ●あり ○なし | 2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。 | ○非該当 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価 | 標準項目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ●あり ○なし | 1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている | ○非該当 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ●あり ○なし | 2. 利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある | ○非該当 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価 | 標準項目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ●あり ○なし | 1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している | ○非該当 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|--|---|-------------------|
| ●あり ○なし | 2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている | ○非該当 |
| サブカテゴリー 3 (3-3) | | |
| 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている | | サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 |
| 評価項目 1 | | |
| 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる | | 評点 () |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している | ○非該当 |
| 評価項目 2 | | |
| 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている | | 評点 () |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク（事業者連絡会、施設長会など）に参画している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる | ○非該当 |
| カテゴリー 3 の講評 カテゴリー 3 の講評を入力してください | | |
| <p>法令遵守と倫理観の徹底に向けた継続的な自己評価と組織的な学習体制が構築されている</p> <p>園は、社会人及び福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理の遵守を徹底するため、入社時の資料配布と面談を通じて周知している。さらに、チェックシートや人事考課面談を定期的を実施し、全職員の自己評価と振り返りを促す仕組みが機能している。これにより、職員は常に自己の行動を振り返り、改善する姿勢を持つことができている。研修への積極的な参加と、その内容を共有する組織的な学習体制を通じて、質の高い保育を提供するための基盤が固められている。</p> <p>利用者の意向を把握し対応する体制と虐待防止に向けた継続的な取組が実施されている</p> <p>園は、入園前面談や重要事項説明書を通じて、苦情解決制度と第三者委員会の存在を利用者に丁寧に説明し、権利擁護の体制を周知している。日常寄せられる意見や要望に対しては、運営委員会や職員会議で組織的に情報共有し、迅速な対応に努めている。また、虐待防止マニュアルの作成、人権擁護のためのセルフチェックリストの活用、園内研修の実施により、不適切な保育の防止対策を徹底している。虐待の疑いがある際には、自治体の地域保育課に通報する義務に従い、関係機関と連携する体制が整えられている。</p> <p>地域に開かれた運営と職員の協力を活かした持続可能な保育の質の向上が求められている</p> <p>園は、第三者委員の導入や財務情報の掲示により運営の透明性を確保し、中学生の職場体験や小学生の保育士体験の受け入れを通じて地域に開かれた組織となっている。職員間には高い協力意識と安定したメンタルヘルスが維持されており、離職者が少ないという強みを有している。しかし、余裕のない人員配置により職員の負担が増加する危険性があるため、ICT化や業務の簡素化、役割分担の明確化による業務改善をさらに進める必要がある。また、職員の新しいアイデアを引き出し、保育内容の形骸化を防ぐための組織的な仕組みづくりが求められている。</p> | | |
| 4 | カテゴリー 4 | |
| リスクマネジメント | | |
| サブカテゴリー 1 (4-1) | | |
| リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる | | サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 |
| 評価項目 1 | | |
| 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる | | 評点 () |
| 評価 | 標準項目 | |

| | | |
|--|--|--------------------|
| ●あり ○なし | 1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる | ○非該当 |
| サブカテゴリー 2（4-2） | | |
| 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている | | サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 |
| 評価項目 1 | | |
| 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている | | 評点（ ） |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員（実習生やボランティアを含む）が理解し遵守するための取り組みを行っている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している | ○非該当 |
| カテゴリー4の講評 | | カテゴリー4の講評を入力してください |
| <p>ヒヤリハット報告の習慣化と優先順位に基づいた事故予防対策が組織的に実行されている</p> <p>園は、事業継続を阻害するリスクを洗い出し、発生しやすさと影響力から優先順位を決定し、事故予防を最優先のリスクとして捉えている。ヒヤリハット報告を習慣化し、昼礼や会議で共有することで、職員の危険予知能力を高めている。階段下のベビーゲート設置や除去食チェックなど、優先順位の高いリスクに対して具体的な対策が講じられている。また、事故発生時には要因を分析し、柵跨ぎ禁止の周知など、職員と保護者双方に再発防止策を徹底する仕組みが機能しており、組織的な安全管理体制が構築されている。</p> <p>個人情報保護の規程とアクセス権限の設定により情報漏えい防止体制が確立されている</p> <p>園は、職員に対して入社時に個人情報誓約書を徴収し、持出し厳禁を徹底するなど、情報管理の意識向上が図られている。園長用パソコンのパスワード設定、書庫や金庫の鍵管理など、情報の重要性や機密性を踏まえたアクセス権限の設定が厳格に行われており、情報漏えい防止のための体制が確立されている。一方で、事業継続計画（BCP）については、策定されているものの、職員や利用者、関係機関への周知や理解を促すための訓練や掲示などの取組が行われていない。BCPの実効性を高めるため、周知と訓練の強化が求められている。</p> <p>リスクの優先順位と情報管理を活かしたBCPの実効性向上とルール周知が求められる</p> <p>園はリスクの優先順位付けとヒヤリハットの活用により、事故予防に対する高い意識と具体的な対策が実行されている。また個人情報保護に関する規程と厳格なアクセス権限の設定により、情報管理の基盤が整えられている。しかし情報管理に関する規程やルールが職員や保護者に明確に示されていないため、周知の徹底が求められる。さらにBCPの周知やシミュレーション訓練が不足している点は有事の際の組織的な対応力を高める上で喫緊の課題となっている。これらの基盤を活かし、BCPの実効性向上とルール周知の強化が、今後の保育の質の向上に繋がる。</p> | | |
| 5 | カテゴリー 5 | |
| 職員と組織の能力向上 | | |
| サブカテゴリー 1（5-1） | | |
| 事業所が目指している経営・サービスを実現する | | サブカテゴリー毎の |

| | | | |
|--------------------------------------|--|-----------------------|--------|
| 人材の確保・育成・定着に取り組んでいる | | 標準項目実施状況 | |
| 評価項目 1 | | | |
| 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている | | | 評点 () |
| 評価 | 標準項目 | | |
| ●あり ○なし | 1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している | | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる | | ○非該当 |
| 評価項目 2 | | | |
| 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している | | | 評点 () |
| 評価 | 標準項目 | | |
| ●あり ○なし | 1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）が職員に分かりやすく周知されている | | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）と連動した事業所の人材育成計画を策定している | | ○非該当 |
| 評価項目 3 | | | |
| 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる | | | 評点 () |
| 評価 | 標準項目 | | |
| ●あり ○なし | 1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している | | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している | | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成（研修）計画へ反映している | | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている | | ○非該当 |
| 評価項目 4 | | | |
| 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる | | | 評点 () |
| 評価 | 標準項目 | | |
| ●あり ○なし | 1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇（賃金・昇進・昇格等）・称賛などを連動させている | | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど）を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる | | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる | | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている | | ○非該当 |
| サブカテゴリー 2 (5-2) | | | |
| 組織力の向上に取り組んでいる | | サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 | |
| 評価項目 1 | | | |
| 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる | | | 評点 () |
| 評価 | 標準項目 | | |
| ●あり ○なし | 1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している | | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている | | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる | | ○非該当 |
| カテゴリー 5 の講評 | | カテゴリー 5 の講評を入力してください | |

| | |
|------------|---|
| | <p>職員の就業状況と意識を把握し意欲向上に繋がる働きやすい職場環境が整備されている</p> <p>園は、職員の定着に向け、有給休暇や勤務時間の希望を可能な限り反映させるなど、就業状況の把握に基づいた働きやすい職場づくりに取り組んでいる。日常の会話や健康チェック表、ストレスチェックを通じて職員の健康状態を把握し、安心して働き続けられるよう配慮されている。また、年2回の個別面談により、業務に関する希望や悩みを聴取し、職員の意識を組織運営に反映させる仕組みが機能している。これらの取組により、職員の意欲と働きがいの向上、そして良好な人間関係の構築が図られている。</p> <p>職責に応じたキャリアパスの策定と全職員への周知が喫緊の課題となっている</p> <p>園は人材確保において工夫が見られるものの、職責に応じた長期的な展望を示すキャリアパスが職員に理解されなく、連動した人材育成計画の策定が期待される。職員個々の能力向上に向けた具体的な取組が示されておらず、職員のキャリア形成に対する意欲向上に課題がある。今後は、園の理念に基づき、職種・職層別の「求める人材像」を明確化し、昇進・昇格の基準や必要スキルを体系化したキャリアパスを策定することが望まれる。策定後は職員への個別説明会や、参照可能な資料の掲示・共有により周知を徹底することが、保育の持続的な向上に繋がる。</p> <p>組織的な学びの成果を個人の成長に繋げるための個人別育成計画の策定が期待される</p> <p>園は研修内容の共有化や、職員の日頃の気づきを組織的に拾い上げ、保育の質の向上や業務改善に活かす仕組みが機能している。特に、経験年数に関わらず職員が発言しやすい環境を整え、チームでの活動を促進している点は評価できる。しかし、この組織的な学びを、個人の成長に繋げるための個人別育成計画の策定や、勤務形態に関わらない全職員への研修機会の提供が不足している。今後は、組織的な学びの成果を、個人のキャリアパスと連動させることで、より体系的な人材育成が求められている。</p> |
| 7 | カテゴリー 7 |
| | 事業所の重要課題に対する組織的な活動 |
| | サブカテゴリー 1 (7-1) |
| | 事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている |
| | 評価項目 1 |
| | 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1) |
| | 前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) |
| | <p>昨年度は働きやすい環境作り重点課題と捉え、重点目標に保育士の休憩時間確保を掲げている。</p> <p>昨年度の重点施策として園長または主任が、その日のシフトに配慮しながら、各々の休憩時間を決め、事務所内のホワイトボードに記入して、職員の休憩時間の見える化に取り組んでいる。</p> <p>その結果、重点目標に掲げたことが100%達成できた。その要因としては、休憩時間を明確にしたことで、それぞれの休憩時間を把握することができ、職員間で休憩がとれるよう協力し合えるようになった。また、休憩場所を作ったことで保育室から離れて休憩できるようになったと考えられる。</p> <p>こうした一連の取組を検証し、今年度に向けて、休憩時間確保の継続とノンコンタクトタイムの確保に取り組んでいる。</p> |
| 目標の設定と取り組み | <ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった |
| 取り組みの検証 | <ul style="list-style-type: none"> ● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である |
| 検証結果の反映 | <ul style="list-style-type: none"> ● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である |
| | 評価項目 1 で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 |

園は、昨年度の重点課題として「働きやすい環境作り」を掲げ、「保育士の休憩時間確保」という具体的な目標を設定し、100%の達成を収めている。これは、園長または主任がシフトに配慮し休憩時間を明確化し、事務所内のホワイトボードで「見える化」に取り組んだ成果である。休憩時間の相互把握は、職員間の協力体制を促進し、目標達成の大きな要因となっている。また、保育室から離れた休憩場所の確保は、職員の心身のリフレッシュに繋がっており、ウェルビーイングの向上に貢献している。この成功体験を基に、今年度は休憩時間確保の継続と「ノンコンタクトタイム」の確保に取り組むなど、組織的な改善サイクルが機能している。

評価項目 2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

昨年度は園児の在籍確保と安定運営を重点課題と捉え、重点目標に1年を通した延べ利用人数の割合を90%以上に掲げている。

昨年度の重点施策としてSNSを利用し、保育の様子を伝えたり、情報発信をする。園見学対応時に実際の保育の様子、安全対策、衛生管理について見ていただき、好印象につなげて取り組んでいる。

その結果、重点目標に掲げたことが100%達成できた。その要因としては、開園5年目になり、地域からの認知度が上がったことや園児の保護者の肯定的な口コミが増えた。SNSの投稿により、保育園のことを知らない人に知ってもらえる機会になったり、保育の様子が見えるようになり、楽しい雰囲気や安心感を与えることができたことが目標達成に繋がったと考えられる。

| | |
|------------------------|---|
| <p>目標の設定と 取り組み</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった |
| <p>取り組みの検証</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない（目標設定を行っていない場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である |
| <p>検証結果の反映</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である |

評価項目 2 で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

園は、昨年度の重点課題として「園児の在籍確保と安定運営」を掲げ、延べ利用人数の割合90%以上という具体的な目標を設定し、100%の達成を収めている。この成果は、SNSを活用し、保育の様子や楽しい雰囲気を積極的に発信することで、地域住民への認知度向上と安心感の提供に繋がった施策によるものである。また、園見学時には、実際の保育や安全・衛生管理を公開することで、利用希望者に好印象を与えている。開園5年目を迎え、在園児保護者からの肯定的な口コミが増加していることは、地域からの信頼が定着し、質の高い保育が継続的に提供されていることの証左となっている。

〔サービス分析：小規模保育事業〕

II サービス提供のプロセス項目（カテゴリ－6-1～3、6-5～6）

| No | 共通評価項目 | | |
|--|---|---|----------------------|
| 1 | サブカテゴリ－1 | | |
| | サービス情報の提供 | | サブカテゴリ－毎の標準項目実施状況 |
| | 評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している 評点（ ） | | |
| | 評価 | 標準項目 | |
| | ●あり ○なし | 1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している | ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている | ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している | ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している | ○非該当 |
| | サブカテゴリ－1の講評 | | サブカテゴリ－1の講評を入力してください |
| | <p>利用希望者の特性を考慮し複数の媒体を活用した情報提供が図られている</p> <p>園は、利用希望者が情報を入手しやすいよう、ウェブサイト（ホームページ、SNS）や利用案内、自治体の窓口、近隣園からの紹介など、複数の情報提供方法を組み合わせて活用している。特に、ウェブサイトでは理念や保育方針、財務情報、第三者評価の結果を公表しており、運営の透明性を高めている。また、利用希望者からの問い合わせや見学の要望があった場合には、その日の保育体制を確認し、個別の状況に応じて丁寧に対応する体制が整えられている。</p> <p>個別の状況に応じた丁寧な見学対応と関係機関への情報提供が図られている</p> <p>園は、見学の要望があった際には、保活が初めての方、外国の方、育児不安を抱える方など、個別の状況に応じて時間をかけて対応し、保育所体験を促すなど、丁寧な個別対応を実施している。見学者には、園の魅力や大切にしている考えを具体的に紹介し、卒園後の保育園利用について安心感を与えている。さらに、近隣の「あやせババール園」に利用案内を置かせてもらうなど、行政や関係機関と連携した情報提供の取組も行われている。</p> <p>財務情報等の公表による運営の透明性を確保しつつ多言語対応の強化が求められる</p> <p>園は、ウェブサイトで理念や保育方針、財務情報、第三者評価の結果を公表することで、運営の透明性を確保し、利用希望者が比較検討できる材料を提供している。また、見学対応においても、個別の状況に応じた丁寧な対応が実施されている。一方で、利用希望者の特性を考慮した情報提供として、外国籍の方への多言語対応や目の不自由な方への点字対応が「実施なし」とされており、多様なニーズへの対応強化が今後の課題となっている。また、財務情報等の専門用語に対する解説の付与も検討されるべきである。</p> | | |
| 2 | サブカテゴリ－2 | | |
| | サービスの開始・終了時の対応 | | サブカテゴリ－毎の標準項目実施状況 |
| | 評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点（ ） | | |
| | 評価 | 標準項目 | |
| | ●あり ○なし | 1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している | ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている | ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している | ○非該当 |
| 評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点（ ） | | | |
| 評価 | 標準項目 | | |
| ●あり ○なし | 1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握 | ○非該当 | |

| | | | |
|---|--|---|--------|
| | ●あり ○なし | 1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある | ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している | ○非該当 |
| 評価項目 4 | | | |
| 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有している | | | 評点 () |
| 評価 | 標準項目 | | |
| ●あり ○なし | 1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している | | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している | | ○非該当 |
| サブカテゴリー 3 の講評 | | サブカテゴリー 3 の講評を入力してください | |
| 子どもの個別状況を多角的に把握し、全職員で情報を共有する体制を構築している | | | |
| <p>入園時に「児童票」や「入園前面談記録」を用いて子どもの基本情報を把握し、入園後も「保育日誌」や「発達経過記録」を通じて日々の心身の状況や生活状況を継続的に記録している。これらの情報は個人ファイルに集約され、全職員がいつでも閲覧できる体制が整えられている。また、日々の観察や送迎時の会話、連絡帳等で把握した子どもや保護者のニーズは、各種計画に反映されており、組織として一貫した情報収集と記録、共有のしくみが確立されている。</p> | | | |
| 子どもの実態に応じた各種指導計画を体系的に作成・見直ししている | | | |
| <p>「全体的な計画」に基づき、年度始めに各クラスの「年間指導計画」を策定し、それを基に「月案」「週案」へと展開することで、計画に一貫性を持たせている。特に0歳から2歳児に対しては、心身の著しい成長と個人差に配慮し、一人一人の発達段階を捉えた「個人案」を毎月作成している。日々の生活や遊びの中での子どもの姿を観察し、その実態を計画に反映させるプロセスが確立されており、子どもの成長を見据えた保育が実践されている。</p> | | | |
| ICTシステムや各種会議体を活用し、子どもの情報を全職員で共有している | | | |
| <p>指導計画をICT化し、全職員がいつでも内容を確認できる環境を整備している。加えて、毎日の昼礼や月1回の職員会議、随時開催されるクラス会議等、多様な会議の場を設け、子どもの状況変化や配慮事項に関する情報を確実に共有している。特に、気になる子どもの姿や行動については、複数の職員で関わり方を話し合う機会を設けており、一人の職員が抱え込むことなく、チームとして子ども一人一人への理解を深め、保育の質の向上に努めている。</p> | | | |
| 5 | サブカテゴリー 5 | | |
| | プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 | サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 | |
| 評価項目 1 | | | |
| 子どものプライバシー保護を徹底している | | | 評点 () |
| 評価 | 標準項目 | | |
| ●あり ○なし | 1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている | | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている | | ○非該当 |
| 評価項目 2 | | | |
| サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している | | | 評点 () |
| 評価 | 標準項目 | | |
| ●あり ○なし | 1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している | | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている | | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている | | ○非該当 |
| サブカテゴリー 5 の講評 | | サブカテゴリー 5 の講評を入力してください | |
| 個人情報保護方針を定め、保護者の同意に基づき、プライバシーを取り扱っている | | | |
| <p>「個人情報保護方針」を策定し、入園前面談時に保護者へ配布することで、個人情報の取扱いに関する園の姿勢を</p> | | | |

明確に示している。写真の掲示やウェブサイトへの掲載に際しては、入園時に提出していただいた「同意書」を用いて保護者の意向を確認し、同意を得た上で実施している。また、個人情報に記載された書類は施錠可能な書庫で厳重に保管し、園外への持ち出しを禁止するなど、組織全体で個人情報保護を徹底する体制が構築されている。

子どもの羞恥心や自尊心に配慮した環境構成と関わり方を工夫している

着替えやおむつ交換の際は、周りから見えにくい場所で行うなど、子どもの羞恥心に配慮した保育を心がけている。並列トイレには仕切りを設け、子どもが安心して排泄できる環境を整えている。また、水遊びの際には肌の露出を抑える工夫をするなど、具体的な場面に応じた配慮が見られる。失敗して衣服を汚した場合でも、個別に対応し、保護者に伝える際も周囲に配慮するなど、子どもの自尊心を守るためのきめ細やかな対応がされている。

虐待防止の園内研修やチェックリストを通じて子どもの権利擁護と早期発見に努めている

虐待防止の重要性を全職員で共有するため、定期的に園内研修を実施している。また、毎月「虐待チェックシート」を活用し、子どもの心身の状態や行動の変化を見逃さないよう努めることで、虐待の早期発見に向けた具体的な取組を行っている。送迎時の様子などから育児困難家庭の状況把握にも努め、「虐待対応マニュアル」やフローチャートを整備することで、万が一の事態にも組織として迅速かつ適切に対応できる体制を整えている。

| | | |
|---|---|----------------------|
| 6 | サブカテゴリー6 | |
| 事業所業務の標準化 | | サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 |
| 評価項目1 | | |
| 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている | | 評点 () |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している | ○非該当 |
| 評価項目2 | | |
| サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている | | 評点 () |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている | ○非該当 |
| サブカテゴリー6の講評 | | サブカテゴリー6の講評を入力してください |
| マニュアルの整備とICT化による業務効率化が図られつつ活用促進に課題がある | | |
| 園は提供するサービスの一定水準を確保するため、マニュアルを作成し書庫に保管するなど、業務の標準化に向けた基盤を整備している。けいれん時のフローチャートを保育室に掲示するなど、緊急時の対応については共有しやすい工夫がされている。また、ICT化を推進し、アナログな方法に慣れた全職員が協力し合って使いこなせるようになった点は、組織的な能力向上として評価できる。マニュアルの保管場所がわかりにくい、ページが多すぎるなどの理由から、職員間での活用に偏りが発生しており、マニュアルの検索性・可読性の改善が求められている。 | | |
| 保護者意見の迅速な反映による安全対策の強化と計画的な見直しサイクルが期待される | | |
| 園は、提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、保護者からの意見や子どもの様子を積極的に反映させている。特に、公道への飛び出し危険性に関する保護者の意見を受け、ベビーゲートの設置や注意喚起の旗の設置といった具体的な安全対策を迅速に講じている点は、利用者の声を活かした質の向上への強い意識を示している。一方で、マニュアルの変更時期や見直しの基準が、制度改定時やニーズ発生時といった受動的なものに留まっており、組織として計画的かつ定期的な見直しサイクルを確立することが今後の課題となっている。 | | |
| ICT化による業務効率化の成果を保育の質の向上に直結する仕組みの検討に期待したい | | |
| 園は手順や要点を明確にしたマニュアルの作成やICT化により、業務の標準化と効率化を上げている。保護者からの意見を迅速に安全対策に反映させるなど、サービスの質を向上させるための組織的な見組が機能している。ICT化に | | |

よる事務作業の削減時間が、雑務や記録に充てられることで、「子どもと向き合う時間」の増加に直結していないという課題が認識されている。今後は業務効率化の成果を保育の質の向上という本来の目的に接続させるため、マニュアルのQ&Aや研修活用など、職員の主体的な学びと実践に繋がる仕組みづくりの検討が求められる。

III サービスの実施項目 (カテゴリー 6-4)

| | | サブカテゴリー 4 | |
|--|--|--|---------------------|
| サービスの実施項目 | | サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 | |
| 1 | 評価項目 1 子ども一人ひとりの発達状態に応じた保育を行っている | 評点 () | |
| | 評価 | 標準項目 | |
| | ●あり ○なし | 1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている | ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している | ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している | ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 4. 特別な配慮が必要な子ども (障害のある子どもを含む) の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している | ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル (けんか・かみつぎ等) に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている | ○非該当 |
| | | 評価項目 1 の講評 | 評価項目 1 の講評を入力してください |
| <p>一人一人の発達過程や生活環境を把握し、個別に応じた保育を実践している</p> <p>入園前面談や日々の送迎、連絡帳等を通じて、保護者と子どもの情報を丁寧に共有し、一人一人の発達の状況や家庭環境を把握した上で保育を行っている。食事においては、完食を目標とせず、個々の喫食量や嗜好に配慮している。また、トイレトレーニングでは、保護者と密に連携を取りながら、子どもの発達段階や意思を尊重し、個々のリズムに合わせて無理なく進めるなど、発達のペースを大切にされた保育が実践されている。</p> <p>子どもの主体性を引き出す人的・物的環境を整え、自発的な活動を促している</p> <p>子どもが自ら関わりたくなるような環境づくりを工夫している。近隣の公園へ出かけ自然物に触れる機会を設けたり、自分で衣服の着脱がしやすいように台を設置したりするなど、子どもの発達を支える物的環境を整えている。また、特定の保育士が食事介助を中心に丁寧に関わることで愛着関係を築き、職員間の円滑な情報共有によって和やかな雰囲気をつくるなど、子どもが安心して過ごせる人的環境の構築にも努めている。</p> <p>異年齢児との交流や習慣への配慮を通して、互いを認め合い、尊重する心を育てている</p> <p>日常的に異年齢の子どもたちが一緒に過ごす中で、年上の子どもが年下の子どもの手を引くなど、互いの違いを肯定的に受け止め、尊重する心が育つよう配慮している。また、宗教上の食事制限や各家庭の生活習慣の違いなどを否定せず、保護者と連携を取りながら個別に対応している。子ども同士のトラブルの際には、双方の言い分を丁寧に聞き、気持ちに寄り添うことで、子どもが自分や相手の思いを大切にすることを学べるよう援助している。</p> | | | |
| 2 | 評価項目 2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている | 評点 () | |
| | 評価 | 標準項目 | |
| | ●あり ○なし | 1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している | ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している | ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 3. 休息 (昼寝を含む) の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している | ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている | ○非該当 |
| | | 評価項目 2 の講評 | 評価項目 2 の講評を入力してください |
| <p>登降園時の情報共有を徹底することで、子どもの一日の生活を継続的に支えている</p> <p>登園時には、連絡帳の確認に加え、視診と口頭で保護者から家庭での子どもの様子を丁寧に確認している。把握した情報は「登降園連絡事項表」に記入し、全職員で共有することで、その日の保育に速やかに反映させている。ま</p> | | | |

た、降園時には、その日の子どもの様子や印象的なエピソードを具体的に伝えるだけでなく、システムを活用して写真で活動の様子を伝えるなど、限られた時間の中で効果的に情報共有を行う工夫が見られる。

子どもの発達段階と主体性を尊重し、基本的な生活習慣が身につくよう援助している

食事や排泄、着替え等の基本的な生活習慣の獲得において、担当保育士が中心となり、家庭での状況を確認しながら一人一人に合わせた援助を行っている。特にトイレトレーニングでは、保護者会で資料を配布して方針を共有し、家庭と園が連携して取り組む体制を整えている。単にやり方を教えるだけでなく、子どもが自ら「やってみよう」とする意欲を認め、褒めることで自信につなげるなど、子どもの主体性を尊重した関わりを大切にしている。

生活リズムや体調に配慮し、安心して休息できる環境を整え、情緒の安定を図っている

日々の会話や連絡帳を通じて、家庭での睡眠や食事等の生活リズムを把握し、園での活動に反映させている。体調が優れない子どもや睡眠不足の子どもに対しては、早めに食事を済ませて入眠できるよう配慮したり、室内で静かに過ごせる環境を整えたりするなど、個々の状況に応じた柔軟な対応を行っている。園での午睡の状況を保護者に伝え、家庭での生活リズム調整を促すなど、園と家庭が一体となって子どもの健やかな生活を支えている。

3 評価項目3
 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している 評点 ()

| 評価 | 標準項目 | |
|---------|---|------|
| ●あり ○なし | 1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 6. 生活や遊びを通して、子どもがまじりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している | ○非該当 |

評価項目3の講評 評価項目3の講評を入力してください

遊び込める時間と空間を確保することで、主体的に生きる力の土台を育てている

天気の良い日は積極的に戸外へ出て、虫や植物などの自然に触れ、探索活動を楽しむ時間を十分に確保している。子どもが自ら「やりたい」ことを見つけ、行動する経験が自信につながると考え、その主体性を尊重している。また、室内環境においても、トイレに行くことを楽しめるように段ボールのトンネルを設置するなど、子どもの気持ちに寄り添った工夫が見られる。遊びを通して育まれる好奇心や探究心を大切にし、子どもが遊び込める環境づくりに努めている。

子どもが安心して自己を表現できる関係性の中で、言葉に対する感覚を養っている

子どもからの指差しや喃語での訴えに対し、保育士が一人一人の目線に合わせて優しく言葉をかけ、その気持ちを代弁することで、言葉によるコミュニケーションの基礎を丁寧に育てている。食事や着替え等の場面では、1対1や少人数で関わりながら行動を言葉にして伝えることで、言葉の理解を促している。また、絵本の読み聞かせを習慣化し、図書館を利用して多様な物語に触れる機会を設けるなど、豊かな言葉の感覚を養うための取組を計画的に行っている。

季節の移り変わりや社会との関わりの中で、子どもの心身の健やかな成長を促している

気候や子どもの体調が良い日には毎日戸外へ出て、走ったり砂遊びをしたりするなど、室内ではできない活動を通して、全身を使った運動の機会を保障している。散歩では、季節の草花や虫の観察を通して五感を刺激し、探究心を育てている。また、信号などの交通ルールや、すれ違う人への挨拶といった社会的なマナーを学ぶ機会としても位置づけている。安全管理を徹底した上で、子どもが身近な環境に主体的に関わる経験を豊かに展開している。

4 評価項目4
 日常の保育に変化と潤いをを持たせるよう、行事等を実施している 評点 ()

| 評価 | 標準項目 | |
|---------|---|------|
| ●あり ○なし | 1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している | ○非該当 |

| | | | |
|--|---|---|-------------------|
| | ●あり ○なし | 2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している | ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている | ○非該当 |
| | | 評価項目4の講評 | 評価項目4の講評を入力してください |
| <p>日常の遊びや生活の延長線上に行事を位置づけ、子どもが参加できるようにしている</p> <p>行事を特別な活動として切り離すのではなく、日々の遊びや生活の自然な発展として捉えている。保育参加では、保護者が保育士と共に関わることで、集団生活の中での子どもの姿や保育への理解を深める機会となっている。また、季節の伝承行事では、関連する話を聞いたり、行事食を味わったりすることで、子どもが無理なく文化に親しめるよう配慮されている。子どもにとって行事が楽しみな特別な日となるよう、意欲を引き出す工夫がされている。</p> <p>子どもの発達段階を考慮し心身の負担が少ない形で季節や文化に触れる機会を設けている</p> <p>0～2歳児という発達段階を踏まえ、集団で一つのことを成し遂げるような負担の大きい行事は行わず、日常生活の中で季節を感じられる取組を大切にしている。行事にちなんだ給食やおやつを提供することで、食を通して楽しみながら季節や文化に触れる機会を創出している。年度ごとに保護者参加の行事内容を見直し、子どもたちの姿をもらいながら保護者同士の交流も図るなど、子どもの育ちと家庭との連携を重視した行事計画を立てている。</p> <p>行事のねらいや子どもの様子を丁寧に伝え、理解と協力を得られるよう努めている</p> <p>保護者が仕事の都合などを調整しやすいよう、年間行事予定を年度当初に共有し、行事のお知らせは文書で確実に伝達している。その際には、行事のねらいが明確に伝わるような内容を心がけている。また、連絡帳や写真、SNS等を活用して、行事に向けての活動中の子どもの言葉や様子をこまめに伝えることで、保護者が子どもの成長共に感じられるよう配慮している。行事後にはアンケートを実施し、保護者の意見を次年度の計画に反映させるしくみも整えている。</p> | | | |
| 5 | 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている | | 評点 () |
| | 評価 | 標準項目 | |
| | ●あり ○なし | 1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている | ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている | ○非該当 |
| | | 評価項目5の講評 | 評価項目5の講評を入力してください |
| <p>家庭的な雰囲気を大切に保育時間の長い子どもが心身共にリラックスして過ごしている</p> <p>保育時間の長い子どもが安心して過ごせるよう、家庭的な雰囲気づくりを重視している。保育室には綿入りの布団を置いていつでも休息できる場所を確保し、保育士も子どもたちのそばに座ってゆったりと関わることで、くつろげる空間をつくり出している。また、午睡時間が短かった子どもや疲れている様子が見られる子どもには、個別に睡眠がとれるよう配慮している。絵本やパズルなど静かに楽しめる遊びを提供し、子どもが穏やかに過ごせるよう努めている。</p> <p>合同保育への移行時に、個別的な関わりで子どもの情緒の安定を図っている</p> <p>夕方の合同保育へ移行する際には、事前に子どもたちへ声をかけ、次の活動への期待が持てるような言葉かけをすることで、環境の変化に対する不安を和らげ、見通しを持って過ごせるよう工夫している。日中よりも人数が少なくなる時間帯だからこそ、保育士が1対1で話を聞いたり、スキンシップを密にしたりと、一人一人と丁寧に関わる時間を大切にしている。昼礼や連絡票で日中の子どもの様子を確実に引き継ぎ、どの職員でも個々の状況に応じた対応ができる体制が整えている。</p> | | | |
| 6 | 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している | | 評点 () |
| | 評価 | 標準項目 | |

| | | |
|---------|---|------|
| ●あり ○なし | 1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 4. 食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている | ○非該当 |

評価項目 6 の講評

評価項目 6 の講評を入力してください

食事の時間を楽しめるような雰囲気づくりと、主体性を尊重する関わりを大切にしている

食事前の手洗いや食べる順番を一定にすることで、子どもが落ち着いて食事に臨めるよう配慮している。食べることを強要せず、完食を目指さないなど、一人一人のペースを尊重する姿勢が全職員で共有されている。また、食育活動を通して食材への関心を高め、苦手な物でも挑戦してみようという意欲を引き出している。子どもが自分で食べようとする気持ちを大切に、できたことを十分に褒めることで、食事が楽しい時間となるような雰囲気づくりに努めている。

子どもの嗜好や体調、文化の違いに配慮した、きめ細やかな食事提供を行っている

入園前面談や日々の連絡帳等を通じて家庭での食事の様子を把握し、園での喫食状況と合わせて、一人一人の嗜好に応じた献立作成に努めている。季節の食材や郷土料理、行事食を取り入れることで、食の体験を豊かにする工夫が見られる。また、食物アレルギーに対しては医師の指示に基づき、調理から提供まで三重のチェック体制で安全を確保している。宗教や文化による食事制限にも個別に対応するなど、多様性に配慮した食事提供が実践されている。

計画的な食育活動を通して、子どもが食に興味を持ち、主体的に関わる力を育てている

栄養士が中心となり、年齢ごとの「食育計画」に基づいて、多様な食育活動を実践している。調理前の食材に触れたり、匂いをかいだりする体験や、おにぎり作りなどの簡単な調理体験を通して、食への関心を深めている。また、近隣の方の協力のもと野菜の収穫体験を行うなど、地域との連携も図られている。保護者に対しては、保育参加での給食試食やレシピの提供、栄養士による個別相談の機会を設け、家庭と一体となった食育を推進している。

7

評価項目 7

子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点 ()

| 評価 | 標準項目 | |
|---------|--|------|
| ●あり ○なし | 1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている | ○非該当 |

評価項目 7 の講評

評価項目 7 の講評を入力してください

戸外活動を通して、子どもが自らの健康や安全に関心を持つよう働きかけている

登園時や戸外活動後、食事前などの手洗いを習慣化し、清潔にすることの心地よさを伝えることで、子どもが自ら衛生的な生活を送ろうとする意欲を育てている。また、気候や体調の良い日には積極的に戸外へ出て、外気浴や身体を動かす遊びを取り入れ、心身の健やかな発達を促している。室内では走らないよう声をかけるなど、日々の保育の中で安全な過ごし方を伝え、子どもが危険を理解し、自らの命を守る行動がとれるよう丁寧に援助している。

アレルギー対応マニュアルを整備し、緊急時研修を実施している

食物アレルギーのある子どもに対しては、医師の「生活管理指導表」に基づき保護者と面談の上で個別プランを作成し、全職員で情報を共有している。調理から提供に至るまで誤食を防ぐための確認を徹底するなど、マニュアルに沿った確実な対応が行われている。また、全職員を対象とした心肺蘇生法の研修を定期的実施し、緊急時に備えている。医療的ケアが必要な子どもの受け入れは現状ないものの、安全を最優先に考えた組織的な対応体制が構築されている。

保護者との情報共有と園内研修により、乳幼児突然死症候群の予防に努めている

保育中に子どもの体調変化があった際は、速やかに保護者へ連絡し、状況に応じて受診を勧めたり、経過観察を行ったりと、緊密な連携体制が取られている。乳幼児突然死症候群（SIDS）の予防については、園内研修を実施して全職員の共通認識を図るとともに、「園だより」を通じて保護者への情報提供と注意喚起を行っている。午睡時に

| | | | |
|---|--|---|---------------------|
| | は、睡眠中の体の向きや呼吸の状態等を「午睡チェック表」に記録し、複数の職員で確認するなど、子どもの命を守るための取組を徹底している。 | | |
| 8 | 評価項目 8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている | | 評点 () |
| | 評価 | 標準項目 | |
| | ●あり ○なし | 1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている | ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 2. 保護者同士が交流できる機会を設けている | ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている | ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている | ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している | ○非該当 |
| | 評価項目 8 の講評 | | 評価項目 8 の講評を入力してください |
| | <p>保護者一人一人の事情に配慮した支援を行い、専門機関と連携する体制を整えている</p> <p>外国にルーツを持つ家庭に対しては、入園前面談で文化や習慣を丁寧に確認し、食事面での配慮を行うなど、個々の事情に寄り添った支援を実践している。また、保護者の悩みや不安に傾聴し、子どもの発達や育児に関する相談に対しては、必要に応じて地域の保健センターや子ども支援センター等の専門機関へ繋ぐ体制が整えられている。保護者の就労状況を考慮して保育参加の日程を調整するなど、保護者の立場に立った柔軟な対応がされている。</p> <p>保護者同士の交流の機会を設け、子育てを支え合える関係づくりを支援している</p> <p>核家族化が進む現代において、保護者が子育ての悩みを共有し、精神的な支えとなる関係を築けるよう、保護者同士の交流の機会を意図的に設けている。保護者会では懇親の時間を設けたり、2歳児クラスでは複数の保護者が一緒に参加する形の保育参加を実施したりすることで、保護者同士が顔を合わせ、気軽に話せる場を創出している。これにより、保護者の孤立感の解消を図るとともに、地域における子育てのネットワーク構築を支援している。</p> <p>保護者との信頼関係の構築と子育てに関する共通認識の醸成に努めている</p> <p>毎日の送迎時の会話や連絡帳でのやり取りを最も重要なコミュニケーションの機会と捉え、子どもの様子を具体的かつ肯定的に伝えることを徹底している。傾聴と共感の姿勢を大切にし、怪我や体調変化など小さな情報も確実に共有することで、保護者との信頼関係を丁寧に築いている。また、保護者会や個人面談、おたより等、多様な方法を通じて園の保育方針を伝え、家庭と園が一体となって子どもの成長を見守るという共通認識の醸成に努めている。</p> | | |
| 9 | 評価項目 9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている | | 評点 () |
| | 評価 | 標準項目 | |
| | ●あり ○なし | 1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している | ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している | ○非該当 |
| | 評価項目 9 の講評 | | 評価項目 9 の講評を入力してください |
| | <p>近隣の施設や人材を活用し子どもが地域社会の中で多様な体験をする機会を確保している</p> <p>近隣の公園や児童館、図書館を日常的に利用し、地域の人々と自然に接する機会を設けている。また、敬老の日には近隣の福祉施設へ手作りの作品を届けたり、ハロウィンで訪問したりするなど、世代を超えた交流を図っている。さらに、地域の小中学生の保育士体験や職場体験を積極的に受け入れており、子どもたちが身近な年長者と1対1でじっくりと関わることで、憧れの気持ちを抱いたり、自己肯定感を高めたりする貴重な機会となっている。</p> <p>園の行事や活動に地域の人々を招き、家族以外の人と関わることで社会性を育てている</p> <p>保育士を目指す学生や地域の学校からの職場体験を積極的に受け入れ、子どもたちが多様な大人や年長者と関わる機会を創出している。これらの交流は、子どもにとって新しい価値観に触れ、コミュニケーション能力や社会性を育む上で重要な役割を果たしている。また、近隣の保育施設とも交流を持ち、異なる集団の中で過ごす経験を通して、子どもの適応力を高めている。園の活動を地域に開かれたものにする中で、子どもたちの生活の幅を広げている。</p> <p>地域との良好な関係づくりに努め、感染症の状況変化に合わせて連携活動を行っている</p> <p>職員に地元出身者が多いという強みを活かし、近隣の商店街や施設と親しみやすい関係を築いている。新型コロナ</p> | | |

| |
|---|
| <p>ウイルス感染症の5類移行に伴い、これまで培ってきた関係性を基盤として、福祉施設への訪問や職場体験の受け入れなどの地域連携活動を少しずつ再開している。交流活動の様子を園のSNS等で積極的に公開することで、地域住民の理解を深め、さらなる連携への参加意欲を高める工夫が見られる。</p> |
|---|

〔事業者が特に力を入れている取り組み：小規模保育事業〕

| 事業者が特に力を入れている取り組み① | | |
|--------------------|--|----------------------------|
| 評価項目 | 6-4-1 | 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている |
| タイトル① | 子どもと家庭に寄り添う、小規模保育の強みを最大限に活かした個別対応を実践している | |
| 内容① | 入園前の丁寧な個別面談に始まり、日々の送迎時の会話や連絡帳での密なやり取りを大切にし、子どもの発達や家庭状況を深く理解しようとする姿勢が保育の根幹をなしている。その上で、子どもの主体性を尊重したトイレトレーニングや、個々のペースに合わせた食事の援助など、マニュアル通りではない血の通った個別対応が実践されている。特に、保護者と共に過ごす時間を取り入れた慣らし保育や、卒園後の交流の機会を設けるなど、入園から卒園後まで継続的に関わる姿勢は、小規模保育ならではの家庭的な温かさを体現している。 | |

| 事業者が特に力を入れている取り組み② | | |
|--------------------|---|-------------------------------|
| 評価項目 | 6-3-2 | 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している |
| タイトル② | 情報共有により、職員全員で子どもの育ちを支える保育体制をとっている | |
| 内容② | 多様な記録様式やICT、そして毎日の昼礼や定期的な会議といった多層的な情報共有の仕組みを構築し、正規・非正規を問わず全職員が子どもの状況をリアルタイムで把握できる体制を確立している。また、「全体的な計画」から個々の「個人案」まで、子どもの実態を基に指導計画を体系的に作成・見直しするプロセスが機能しており、組織として子どもの成長を見通した保育を実践している。限られた人員の中で質の高い保育を安定的に提供するための、チーム保育体制は、小規模保育園にとって優れた取組となる。 | |

| 事業者が特に力を入れている取り組み③ | | |
|--------------------|--|-------------------------------------|
| 評価項目 | 6-4-9 | 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている |
| タイトル③ | 保護者を共に育てるパートナーと捉え地域の子育て支援拠点としての役割を果たしている | |

| | |
|-----|--|
| 内容③ | <p>毎日のコミュニケーションを基盤に保護者の就労状況や文化的背景といった個々の事情に配慮した柔軟な支援を行っている。さらに保護者会での懇親会や保育参加を通じて保護者同士の横のつながりを意図的に創出し、孤立しがちな保護者の精神的な支えとなるコミュニティ形成を支援している。園の保育方針や子どもの成長の様子をおたよりやSNSなど多様な媒体で具体的に伝えることで、家庭との共通認識を醸成し、強固なパートナーシップを築いている。地域の子育て家庭全体を支えようとする姿勢は、地域に根差す小規模保育園の重要な役割を表している。</p> |
|-----|--|

〔全体の評価講評：小規模保育事業〕

| No. | 特に良いと思う点 | |
|-----|--------------|--|
| 1 | タイトル | 一人一人を尊重する丁寧な関わりを基盤とし、子どもの主体性と健やかな心身の発達を育む保育を実践している |
| | 内容 | 入園前の丁寧な面談から始まり、日々の生活の中で子どもの発達や個性、家庭環境をきめ細かく把握し、一人一人を尊重する姿勢が保育の根幹にある。食事や排泄、遊びといったあらゆる場面で、子どもの「やってみたい」という気持ちを大切にし、主体性を引き出すための人的・物的環境が計画的に整えられている。これらの取組は、子どもが安心して自己を発揮し、他者を思いやる心を育む土台となっている。今後もこの丁寧な関わりを継続し、子どもたちの生きる力を育てていくことを期待している。 |
| 2 | タイトル | 家庭との緊密な連携を軸に、保護者の子育てを多角的に支援し、共に行う子育てのパートナーシップを築いている |
| | 内容 | 毎日の送迎時の会話や連絡帳での密な情報共有を基盤に、保護者との信頼関係構築に努めている。保護者一人一人の事情に配慮した柔軟な対応や、保護者同士の交流の機会を設けることで、子育ての不安や孤立感の軽減を図っている。また、保育参加や園だより等を通じて園の保育方針や子どもの育ちを具体的に伝え、家庭と園が共通認識を持って子育てに取り組む姿勢は高く評価できる。この強固なパートナーシップが、子どもの健やかな成長を支える大きな力となっている。 |
| 3 | タイトル | 組織的な情報共有と計画的な実践により、安全で質の高い保育サービスを安定的に提供する体制を構築している |
| | 内容 | 多様な記録様式やICT、各種会議体を活用し、子どもの情報を全職員で確実に共有する組織的なしくみが確立されている。これにより、どの職員も一貫性のある対応が可能となり、保育の質が安定している。また、「全体的な計画」から「個人案」まで、子どもの実態に基づいた指導計画を体系的に作成・見直しするプロセスが機能している。アレルギー対応やSIDS予防等の安全管理においても、マニュアル整備や研修を通じて組織的に取り組み、子どもたちが安心して過ごせる環境を提供している。 |
| No. | さらなる改善が望まれる点 | |
| 1 | タイトル | 多様な家庭が安心して子どもを預けられる環境を整えるために多言語対応の強化や情報公開の更なる透明性と専門用語の平易が求められる |
| | 内容 | 園はSNSを活用した積極的な情報発信や保護者の意見を迅速に安全対策へ反映させる姿勢により、高い信頼を獲得している。地域に暮らす外国籍の方々への多言語対応や視覚障害者への配慮が現状では「実施なし」となっている。WEBで公開されている財務情報などの専門的な内容についても、誰もが容易に理解できるような平易な解説を付与することが、運営の透明性を真に高める鍵となる。今後は大規模災害を想定したBCPの具体的な内容を保護者へ周知し、有事の際も安心して預けられる体制を可視化することで、更なる信頼の醸成を図ることが望まれる。 |
| 2 | タイトル | 職員が将来の展望を持って専門性を高め続けられるようキャリアパスの明確化と業務効率化を保育の質向上へ繋げる仕組みづくりに期待したい |

| | | |
|---|------|---|
| | 内容 | <p>昨年度の重点目標であった休憩時間の確保を100%達成し、ICT化による業務の標準化を進めたことはウェルビーイング向上の一助となっている。職責に応じた長期的なキャリアパスが職員に十分に浸透しておらず、個々の成長を支える個人別育成計画の策定も今後の課題として残されている。マニュアルの可読性や検索性の低さが職員間での活用頻度の差を生んでおり、ICT化によって捻出された時間が子どもと向き合う時間の増加に直結していない。今後は効率化で得た余力を保育の質を高めるための主体的な学びに転換できる組織文化の構築が期待される。</p> |
| 3 | タイトル | <p>地域社会との共生を深める拠点として外国籍家庭への支援体制の構築や近隣施設との顔の見える関係による危機管理体制の強化が期待される</p> |
| | 内容 | <p>開園5年目を迎え一時保育の実施や地域行事への参加を通じて、園は地域の子育て支援拠点としての役割を着実に果たしつつあります。しかし、地域における外国ルーツを持つ家庭の増加に対し、言葉の壁によるコミュニケーションの難しさが顕在化しており、多文化共生に向けた具体的なツール導入や支援体制の整備が急務となっている。今後は、近隣の他園や自治体、地域住民との「顔の見える関係」をさらに深化させ、災害時などの緊急時における相互協力体制を具体化することで、地域全体で子どもを見守る安心のネットワークを牽引していくことが望まれる。</p> |